

家庭学習の手引き

令和4年度版

学校教育目標

体も心もたくましく、 しかも、しなやかな子供

学校と家庭とが連携し、私たちが目指す子供へと育てていきましょう。

1 子供にどんな力を育みたいのか

家庭学習では、第一に「**家庭での学習習慣**」の定着を目指します。「家庭での学習習慣」とは、毎日「学年×10+10分」の学習に取り組むことを指します。

併せて、家庭学習を通して育みたい力を整理しました。以下の表の通りです。

Before	→	After (育みたい力)
		※【 】は本校で育成を目指す資質・能力との関連
言われないと取り組まない	→	自分から 進んで 取り組む力【問題解決力】 「よし、やるぞ」
与えられないと取り組まない	→	自分から 求めて 取り組む力【問題解決力】 「今日は何をしようかな」
与えられたことしかしない	→	自分で必要な学びを 選択して 取り組む力【活用力】 「課題が終わったので、次は〇〇をしよう」
途中で取り組むのを止めたり、手を抜いたりする	→	粘り強く 取り組む力【調整力】 「もう一度調べ直してみよう」
取り組みっぱなしになっている	→	自分で学習を 振り返る 力【活用力】【調整力】 「今日は〇〇ができた。次は△△をしよう」

「家庭での学習習慣」の定着とともに、Afterの欄にあるような力を、6年間を通して育てていきたいと考えます。以下に、学年に応じた宿題の内容を示します。

2 学校から出される宿題について

	月	火	水	木	金
1年	のびプリ	のびプリ	漢字練習	のびプリ	作文
2年	のびプリ	のびプリ	漢字練習	のびプリ	作文
3年	のびプリ	漢字練習	自主学习	のびプリ	作文
4年	のびプリ	漢字練習	自主学习	のびプリ	作文 or 自主学习
5年	自主学习	自主学习	自主学习	自主学习	作文 or 自主学习
6年	自主学习	自主学习	自主学习	自主学习	作文 or 自主学习

- 音読は、全学年共通の宿題として毎日行います。
- 上記の予定に、端末を利用した課題（navima等）も取り入れていきます。
- 低学年は宿題中心の家庭学習に取り組み、基礎基本の定着を目指しましょう。中学年からは、宿題として与える量が徐々に少なくなりますので、自主的に学習が行えるように御支援ください。
- 5・6年生の月～木の宿題は、子供が個人で学習計画を立てて取り組みます。



3 進め方Q&A

Q1 「自分で考える力が育っていない子にとって、内容が決まっていない学習が苦痛そうです。」
「自主学習が役に立っているのか分からない。」

※「令和3年度 学校評価アンケート」の記述より

→ 自主学習では、どのようなことに取り組ませればよいのですか。

昨年度までは「課題解決学習」を中心に据えて進めてきましたが、保護者アンケートに多く見られた記述や子供へのアンケート結果を基に、目的と内容を整理し、子供・保護者・教員で協同的に取り組んでいきます。

上述の通り、家庭学習では、第一に「家庭での学習習慣」の定着を目指します。「家庭での学習習慣」とは、毎日「学年×10+10分」の学習に取り組むことを指します。その中で「自主学習」に取り組んでいきます。

自主学習の種類は、大きく分けて2種類あります。一つは、漢字計算などの「反復学習」、もう一つは、疑問を課題として設定し解決する「課題解決学習」です。

中学年では、「家庭での学習習慣」の確立とともに、「課題解決学習」のやり方を身に付けさせることに重点を置きたいと思います。

高学年では、「課題解決学習」の追究力を高めたいです。また、自分の学習状況を客観的に見つめ、「算数を復習する必要がある」と考えた場合には「反復学習」をすることも良い取組です。

大切なのは、決められた時間に、しっかりと家庭で学習する習慣を身に付けることです。その中で反復練習に取り組み続けることも決して悪いことではありません。

今年度から、毎月の学年便りでも、各学年の自主学習の取組を紹介していきます。御家庭で話題にさせていただき、良い取組は積極的に取り入れていてください。

Q2 子供が高学年なのですが、基礎基本の定着が心配です。

3学年以上のホールに「学習プリントコーナー」を設けます。必要に応じて御利用ください。なお、宮城県総合教育センターのHP「みやぎ単元問題ライブラリー」から、国語・算数の学習プリントをダウンロードすることもできます。

<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/support/tangen/>

4 終わりに

家庭学習の大切なポイントは「子・教師・保護者」の三者が互いに手を取り合って進めることです。教師は、子供のノートから、その学年に合った適切な学習に取り組めているか、間違いはないかを助言していきます。保護者は、家庭での学習の様子について、取り組む姿やノートから見取り、励ましていきます。そして子供は、教師や保護者から受けた助言や励ましを基に、「学年×10+10分」の学習に取り組めます。

「子・教師・保護者」の三者が、それぞれの立場で、それぞれ取り組むことで、家庭学習は充実していきます。まずはノートの隅に「見たよ」の二重丸だけでも付けてみてください。それだけでも子供の意識は変わり始めます。

